

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	13	活気にみちた往来の盛んなまちの基盤づくり	3	港湾整備の促進	2	港湾施設の整備促進
事業名	小野田港港湾整備事業償還金					
予算費目	款	8	土木費	項	4	港湾費
	細目	1	港湾管理費	細々目	1	港湾管理費
事務区分(根拠法令)		自治事務			予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
小野田港は、電力、化学、鉄鋼等各種企業がある臨海工業地域の物流拠点であり、昭和35年には重要港湾に指定されている。49年に定められた港湾計画に基づき整備されている。港湾施設利用者などと連携を図る必要がある。	地域経済発展のため、重要港湾小野田港の港湾施設の整備拡充を図り、開港指定を促進する。	1. 小野田港本港区埠頭用地造成事業の償還金を支出する 2. 日本港湾協会、港湾都市協会、宇部小野田清港会、瀬戸内海の路ネットワーク推進協議会、海上保安協会などに加入し負担金を支出する	
活動指標		成果指標	
負担金及び償還金		小野田港の貨物取扱量	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
19,034千円	18,892千円	500万t	376万t
			成果指標の到達度(B/A)
			75%

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	造成事業償還金	18,700,000	18,557,822	財源(割内合訳)	国庫支出金		
	協会負担金	334,000	334,000		県支出金		
					地方債		
					その他	19,034,000	18,891,822
			一般財源				
合計		19,034,000	18,891,822	合計		19,034,000	18,891,822
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.05	296,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
国は港湾整備の選択と集中として、重要港湾103港から重点港湾40港程度を選定し、国の直轄事業で整備することとしているが、小野田港は重点港湾に選定されていない。	年間の貨物取扱量は景気に左右されるため、改善策は特にない
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	13	活気にみちた往来の盛んなまちの基盤づくり	3	港湾整備の促進	2	港湾施設の整備促進
事業名	港湾整備事業負担金					
予算費目	款	8	土木費	項	4	港湾費
	細目	1	港湾管理費	細々目	1	港湾管理費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
小野田港は、電力、化学、鉄鋼等各種企業がある臨海工業地域の物流拠点であり、昭和35年には重要港湾に指定されている。49年に定められた港湾計画に基づき整備されている。国の直轄事業が休止されたが、小野田港の利用推進のため、老朽化した施設の改修及び航路・泊地の浚渫が必要となっている。	地域経済発展のため、重要港湾小野田港の港湾施設の整備拡充を図り、開港指定を促進する。	県事業費に応じた地元負担金を支出する。負担金 補助事業(維持浚渫、補修) 25% 単独(港湾) 40%		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
県事業負担金		小野田港の貨物取扱量		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	75%
46,900千円	46,809千円	500万t	376万t	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	県事業負担金	46,900,000	46,808,250	財(源割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他	40,300,000	40,200,000
			一般財源		6,600,000	6,608,250	
合計		46,900,000	46,808,250	合計		46,900,000	46,808,250
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.05	296,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
小野田港施設は老朽化が進んでいるため、補修が必要である。	小野田港の管理者である山口県と情報を共有し、補修予算を確保する。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	平成23年、24年で泊地を暫定水深まで浚渫した。